

4．生物分布

1) 概要

神於山一帯は、伐採、耕作などの人為との関わりを受けながら多様な植生環境が維持されてきた。このため、二次林や二次的草地を主体とする植生環境からなっており、一帯に生育・生息する動植物は里山にごく普通にみられるものが多いとされている。

しかし、神於山に隣接する意賀美神社の境内林は、大阪府の自然環境保全地域、緑の百選や市指定の天然記念物に指定されており、カギカズラ、スズサイコなどの貴重な植物が生育している。また、山直神社の社叢林も市指定の天然記念物に指定されており、自然性の高い樹林が神於山周辺の社寺でわずかながらに残存している。

神於山一帯に生育する植物は、山地性の植物を中心として周年を通して 500 種にものぼり、これらの植生環境を「ねぐら」や「えさ場」とする動物の生息環境を十分に備えている。そして、哺乳類ではモグラ、ネズミ類が、両生類ではアマガエルやヌマガエルがみられるほか、鳥類では年間を通じて 71 種が確認され、確認種の中にはハチクマ、ハイタカ、ノスリなどの猛禽類なども含まれている。また、身近に見られる昆虫も多く確認できるなど、神於山にはこれらの動植物が生育・生息できる環境いわゆる里山としての生物多様性がかろうじて維持されているといえる。

表 1 - 2 神於山で確認された植物・動物

植 物			科	種	動 物	
シダ植物			16	48	哺乳類： 5 種	昆虫類： 2 6 9 種
裸子植物			5	10	鳥 類： 7 1 種	魚 類： 7 種
被子植物	双子葉植物	離弁花類	52	229	両生類： 5 種	水生昆虫： 2 3 種
		合弁花類	25	138	爬虫類： 6 種	(津田川 1 3 種)
	単子葉植物		15	113		(牛滝川 1 9 種)
合 計			113	538		

岸和田市自然環境調査報告書 岸和田市 (2002 年 3 月) をもとに作成

表 1 - 3 動植物の概況

項 目	概 況
植生・植物	神於山に隣接する意賀美神社、山直神社の社叢林や神於寺の境内林は自然あるいは自然林に酷似する林相を有し、自然的資質の高い樹林である。 その他は二次林や二次的草地を主体とする植生環境からなっており、その構成種は里山にごく普通にみられるものが多いが、スズサイコ、カギカズラなどの地域で稀少な植物をはじめ、景観構成要素を有するクスノキやエノキの大木、アカシデ林、イロハモミジ林等の樹木や草花などが散見されている。
哺乳類	樹林地を核とする地域で、中腹から山麓の集落、農地、果樹園、草地、牛滝川・津田川の水辺などの多様な自然環境を有し、イノシシ、タヌキ、イタチ、モグラなどが生息できる自然環境が維持されており、特に、タヌキ、イノシシが山頂付近を中心に広範囲に活動していると考えられる。
鳥 類	樹林地を核とする地域で、中腹から山麓の集落、農地、果樹園、草地、牛滝川・津田川の水辺などの多様な自然環境が保持されており、生息環境の多様性は高い。樹林地にはヒタキ類・カラ類などの小鳥が多く、ホトトギスやフクロウも生息し、集落から農地にはヒバリやツバメ、ムクドリなどがみられる。牛滝川の水辺はシギ・チドリ類の餌場として適しており、また、渡り鳥の中継地としての機能も有している。
両生類 ・爬虫類	多様な土地利用や植生環境に支えられ、山塊一帯ではトカゲ、カナヘビ、ヒバカリ、アオダイショウ、イシガメ、カジカガエル、タゴガエル、ウシガエル、アカガエルの一種などが確認されている。山麓部の谷筋などではヘビ類やダゴガエルが、山頂付近などでトカゲ、カナヘビなどが多い傾向がみられる。
陸生昆虫類	多様な土地利用や植生環境に支えられ、ショウリョウバッタモドキなどの草地性の種から、ヒナカマキリ、ヒメヤママユ、キスジゴキブリなどの森林性の種まで多様な組み合わせの昆虫が確認されている。
淡水魚類	神於山一帯には、魚類が生息できる、ため池が少なかったが、フナ類、コイなどの種が確認されている。また、藤尾池には最近、外来種のオオクチバスの生息が確認されている。

岸和田市自然環境資源調査報告書 岸和田市 2002 年 3 月

2) 植生

自然再生区域に展開する森林植生としては、以下に示す9タイプの樹林がみられたほか、近年、活用が先行的に行われつつある区域では、アメリカフウ、サクラ、ハギ、ツツジなどの植栽空間がみられる。また、森林植生の移行帯や農地との移行帯では、ササ・タケ草地をはじめとする3タイプの草地植生が斑紋的にみられた。

なお、その他の土地利用単位としては、以下の5タイプのような単位が確認された。

表1 - 4 森林植生及び土地利用

	森林植生及び土地利用
森林植生	常緑広葉樹林（シイ型、アラカシ・クスノキ型、ウバメガシ型） 落葉広葉樹林（コナラ型、アカシデ型、ハゼノキ・アカメガシワ型） 竹林（マダケ・モウソウチク・ハチク型） スギ・ヒノキ林 イロハモミジ林
草地植生	ササ・タケ草地 クズ・セイタカアワダチソウ草地 メヒシバ等低茎草地
土地利用	苗圃・常緑果樹園・修景植栽林 耕作地 墓地 造成裸地 人工改変地

「神於山（里山）植生調査業務（現況編）」岸和田市 2002年3月

なお、相観植生は「相観による植生タイプ」、「樹高階区分」、「粗密度区分」の組み合わせに基づき分類し、竹林については、「良林（現行において管理が行き届いている林分）」、「普通林（現行において管理が不十分な林分）」、「不良林（現行において管理が不十分な林分であり、高密度でしかも立ち枯れを多く有する林分）」の3つのタイプに分類している。

